水環境館いきものトピックVol.10

水辺であそぼうシリーズ！～道具編②～

前回は網とバケツについてでしたが、今回は命を守るために大切な「ライフジャケット」についてです。水辺での活動は危険と隣り合わせ。ちょっとした事故が、命に関わる大事故につながることもあります。「着用していれば100%安全」ではありませんが、それでも、不幸な事故を防ぐためには、ぜひ着用をお願いします。

水遊びに適したライフジャケット

【ライフジャケット】
(子ども用)

子ども用のライフジャケットは「股ひも(2本の長いひも)」が付いており、落水時にライフジャケットがすっぽ抜けるのを防げる。また首の後ろにも枕のような浮力体があるので、落水時は自然と仰向け姿勢になり、呼吸がしやすい。小児用と児童用があるので、体の大きさに見合ったものを使用する。

【ライフジャケット】
(大人用)

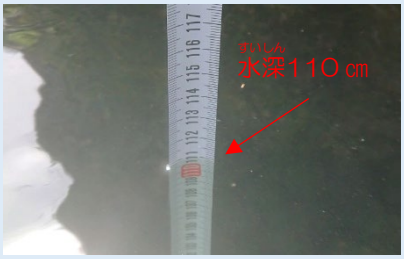
2カ所のバックル(留め具)を閉じ、ベルトを締めることで体にフィットする。小学高学年以上だと身長によってはこちらの方が体に合いやすいことも。水の中で活動するなら、釣り用のフィッシングベストより、水遊び専用のものを着用したい。水遊びのときは、子供だけではなく、大人も一緒に着用してほしい。

※思わぬケガや虫・日除けのため、長袖、長ズボン、軍手着用だとベスト。

また、ヘルメットがあればなおさら安心です。特に流れのある川では、足を滑らせたはずみで頭を岩に打ち付けてしまうことがあります。水遊びの際は、自転車用のものではなく、水遊び専用のものを使用してください。

【ヘルメット】
水遊び用のヘルメットには、水流を受け流せるように穴が開いている。コケが生えている場所は滑りやすいためできる限り着用してほしい。

橋脚(橋の土台)周りは水の流れが複雑なうえ、いきなり深くなっている。



大人の腰くらい水深がある。
(小学校のプールの平均水深と同じ。)

毎年夏ごろになると、悲しい水辺の事故が報道されます。どんなに浅くても、また、どんなに流れが穏やかでも人は溺れることがあります。溺れる時は声も出せず、落水する音も川の流れにかき消されてしまい、発見されるのは川の底という例も多くあります。まず第一に大切なのは「大人の人に見てもらっておくこと」です。大人の方もどうかお子様から目を離さないでください。ライフジャケットは絶対安全ではなく、あくまで「助かる確率を上げるもの」です。他の人が着けていなければ「恥ずかしい」と思うかもしれませんが、命には代えられません。無事に家に帰って初めて「楽しかった」と言える思い出になります。今年の夏が、どうか目いっぱい楽しい夏になるようにしてください。

水環境館 RIVER MUSEUM
住 所 / 北九州市小倉北区船場町 1-2
開館時間 / 10:00～19:00 休館日 / 原則火曜日(長期休暇期間中除く)・年末年始
お問い合わせ / 093-551-3011
指定管理者 / 玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体
http://mizukankyokan.jp